

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害児理解演習Ⅱ Understanding Children with Disabilities Ⅱ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	特になし。	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
子どもの育ちと支援、障害児理解演習Ⅰ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
大塚 登	本館2階	火・水・木・金曜日の9時～17時	授業中に指示します	
授業の概要				
この授業では各自の障害児者観を問い直すことにより、障害児者は「こうあるべきだ」というバイアスに気づき、より幅広い視点から障害児者を理解し、より良い支援につなげることをねらっています。				
授業の目標				
賛否両論が生じやすい題材をもとに、 ①自分の考えを他者に分かりやすくまとめる・わかりやすい発表ができるようにする。 ②他者の意見も尊重しながら自分の考えを深められるようにする。				
授業の方法				
賛否両論ある、意見が分かれるような題材を提供し、①自分の考えをまとめる、②班ごとに級友と意見を発表し合う、③班ごとに出た意見を発表する。なお、意見の深まりが見られなかった場合は、授業者が質問を補充する。③発表も参考に、自分の考えを深め、文章にまとめる。という授業形態をとります。13、14回目の授業では障害とまではいきませんが少数者ゆえの生きにくさを抱える人たちの存在を紹介します。				
学習の成果（学習成果）				
①障害児者は「こうあらねばならない」という偏見が自分にもあることに気づくことができる。 ②異なる意見を参考に、自分の考えを修正する・深化させることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業方法、評価の説明、発表分担）、気づかひの大切さ（一通の通知から）			
第2回目	障害児者の定義を自分で考えよう			
第3回目	障害児者と命について考えよう1（出生前診断について考えよう：新聞記事から）			
第4回目	障害児者と命について考えよう2（出生前診断について考えよう：ブログから）			
第5回目	障害児者と命について考えよう3（「神聖な義務」を読んで考えよう）			
第6回目	障害児者と命について考えよう4（「障害児と母親の裁判事例」を考えよう）			

第7回目	障害児者の幸せを考えよう1（「利用者本意ではない支援」を考えよう）	
第8回目	障害児者の幸せを考えよう2（「利用者本意である支援」を考えよう）	
第9回目	障害児者の幸せを考えよう3（労働の意義を考えよう）	
第10回目	障害児者の幸せを考えよう4（累犯障害者と様々な取組について理解しよう）	
第11回目	障害児者の幸せを考えよう5（このパフォーマンスは有りか：「障害者のお笑い」）	
第12回目	障害児者の幸せを考えよう6（このパフォーマンスは有りか：「障害者プロレス」）	
第13回目	少数者の生きにくさについて知ろう1（色覚障害）	
第14回目	少数者の生きにくさについて知ろう2（日本人権問題）	
第15回目	授業のまとめ（心のバリアフリー）・課題作文	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	10%	「この授業を受けて、あなたの障害者観にどのような変化があったか、或いはなかったか」をテーマに、800字以上の作文を書いてください。変化の有無を問題にするのではなく、「なぜそうなのか」を書いてください。
調査報告書		
小テスト	90%	毎回ワークシートを用意します。6点×15回=90点
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
毎回資料を用意します。		
履修上の留意点・ルール		
自分の考えを文章化する際、電子辞書を使用することを薦めます。		